



さまざまな年代の人たちが暖を取りながら和やかに交流を深めたシェアスペースウィークリー

くずまき観光地域づくり協議会 若者・高校生部会が 町家開放で社会実験

くずまき観光地域づくり協議会(会長、觸澤義美副町長)の若者・高校生検討部会は1月9日から16日までの8日間、シェアスペースウィークリーとして町家(新町)を開放し、町民の皆さんが気軽に立ち寄れる居場所づくりに向けた社会実験を行いました。

訪れた人たちは、こたつを囲んでおしゃべりやお茶を楽しんだり、勉強を教え合うなどしながら交流を深めていました。期間中は、さまざまな年代の人たちが思い思いの時間を過ごしながらくつろぐ場としてにぎわいました。

五保で書き初め体験 墨と毛筆に興味津々

五日市保育園(畑中節代園長囑託員、園児19人)では1月17日、文字の上達を願う日本の年中行事を通じて、毛筆の感触や墨の持つ味わいを伝えようと書き初め体験を行いました。

お題は今年のえとの「いのしし」。子どもたちは姿勢を正し、服や手が汚れないように気を付けながら真剣な表情で取り組んでいました。

初めて書き初めに挑戦した栗村太久磨くん(5才)は「楽しく上手に書けました。今度は雪だるまを書いてみたいです」と誇らしげな笑顔を見せ、夢中で筆を走らせていました。



今年のえと「いのしし」の文字を書き上げて満足げな子どもたち

パティシエ 酒寄さんが講演&調理指導 食生活改善推進員研修会

町食生活改善推進員協議会(柴田幸榮会長、会員89人)の研修会は1月24日、保健センターで開催され会員約50人が参加しました。

今回は、地域おこし協力隊のスイーツプロデューサーとして活動している酒寄優樹さんを講師に講演と調理実習を行いました。講演では、パティシエを目指したきっかけや思い出のスイーツなどが紹介され、調理実習では特産品の山ぶどうジュースを使ったゼリーなど3品を作りました。会員らは手際よく次々と作業を進めていました。



地域おこし協力隊スイーツプロデューサーの酒寄優樹さん(中央)から指導を受ける食生活改善推進員の皆さん



バランスを見ながら慎重に飾り付けする参加者と完成した門松風アレンジメント(円内)

門松風アレンジメント 新年への願い込め体験

12月23日、森のこだま館で創作体験教室が開催され、参加した親子連れらが門松風アレンジメントを体験しました。

講師の近藤明美さん(新町)の指導を受けながらお正月を前に縁起が良いとされる松や竹などを生けました。参加者たちはバランスを考えながら丁寧に飾り付け。同じ材料と手順でも趣が異なる作品の数々に感心した様子でした。

お母さんと一緒に参加した向川原綺心ちゃん(5歳)は「面白かった。ピンクのお花がきれいでした」と笑顔で話してくれました。

海外フリートークカフェ 違いを知りもっと身近に

葛巻高校出身で青森県立保健大学1年の本宮和昌さん(19歳、泉田)が企画したフリートークカフェは12月29日、町家(新町)で行われ高校生や帰省中の大学生ら約20人が参加しました。

海外に興味や留学経験のある人などが集まり、日本との文化の違いや海外で感じたこと、経験を町にどう生かすかなどのテーマに沿って和気あいあいと語り合いました。

本宮さんは「テーマを変えながら、定期的で開催したい。葛巻で集まることで地元に戻るきっかけにしたい」と目を輝かせていました。



海外留学や旅行先でのエピソードなどを語り合う参加者たちと主催者の本宮和昌さん(円内)

葛高生と議員が懇談会 広い視野から鋭く提言

葛巻町議会(中崎和久議長、議員9人)主催の「高校生とのふるさと懇談会」は1月18日、葛巻高校会議室で行われ同校1、2年生12人と町議会議員らが意見を交換しました。

生徒たちは葛巻高校に必要な施策や町の未来に望むことなどをテーマに、それぞれの考えを発表。高校生活を送る中での身近な問題や町づくりなどへの提案が活発に出されました。

三浦凜太郎さん(2年)は「自分の意思を伝えることができ、いい経験ができました」と充実した表情で話してくれました。



日頃から感じていることや改善策などを積極的に発言する葛巻高校の生徒たち